

青岸渡寺から眺めた那智の滝

新聞にこの前、オウム真理教で弁護士さんの一家殺害や、サリン事件にかかわったとして死刑が確定した中川智正という人が獄中で書いた詩

島の人達は、危険をおかして捜

私たちも、ちまたの凶悪な犯罪の二ユースが頻繁に流れる中で、苦境に見舞われた中で、今一度原点を見直してみたいと思います。正という字は「一に止まる」と書

明けておめでとう御座います。あるよう祈らずにはおれませんが、昨年ほど「まさか」の年はなかったように思いますが、今年こそは安寧で心豊かに暮らせる一年で、除くことにして、良きことをなすように励みましよう。と、いうことでしょうか。

諸悪莫作 衆善奉行

慈光

“あい”こそあれば
人生は出あい
人間はふれあい
世間は助けあい
み佛にめぐりあい
(双樹より)

第91号
発行 向陽寺
発行責任者 渡辺紀生
〒861-6102 上天草市松島町合津2856
TEL.0969-56-0200
http://www.dandl.co.jp/koyoji/
kishow@orange.ocn.ne.jp

有仏性」いっさいしゅじようしつうぶつしよう、と読むのですが、そのことをお示しになっているのです。

慰霊碑も立派に建っていて、トルコと日本の友好の絆の象徴になっていることも記されており、感動すら覚えました。

索をし、助かった人達の看護をして、あの貧しい中で自分たちの食料を惜しみなく提供したそうです。六十九名は、比叡や金剛という戦艦で日本政府がトルコまで送り届けたとされるされていました。

が掲載されていました。

恐ろしき

事なすときの我が顔を

見たはずの月

今日も清けし

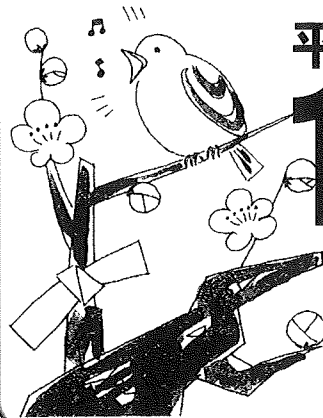
年始参り御案内

平成24年

1月5日(木曜日) 午前11:00より

法話：住職 渡辺紀生

ご命日は1月6日よりお参りいたします



お札やお守りはドンドン焼きで処分致しましょう

納骨堂慈光殿お申込み受付あと三基のみです。

大破れ

今回もターゲットは相変わらずの家族である。他に無いかと懸命に探すのだが、どうしても家族の話題には負けてしまうものばかりで、ちよつと巷も頑張つて欲しい。次男の隆文(りゅうもん)が友達からと、誕生日に蟻を飼うと透明なジェルに巣穴を掘って、外からも観察できるというのを貰ってきた。当然餌にもそのジェルがなるらしく優れものだった。最初は小さな蟻を二十匹ばかり捕まえて入れておいたのだが、固まって会議をするだけで一向に掘る様子がないので、妹のサエが帰ってきたのを機に山蟻の大きいのに換えた。ぎやあぎやあ言いながら捕まえている様子に、ずう体はでかいが俺には子供が居るという実感。そこでお婆ちゃん登場である。先日骨折で四十日間も入院したので復帰不可能かと思いきや、さすがは蛇年、復活した。「お婆ちゃん、そのうちにこの蟻が巣を作るから楽しみに見てて」と隆文が目の前に据えた。「わー珍しなネー」と言つて喜んでた。それから数時間後、お御堂にお客様があり、全員接待にでた。お帰りになつたお客様を見送つて居間へみんな引き上げた。家内が柿をむいてお婆ちゃんに出して居たのだが、その白いお皿の片隅に黒いものが固まって見えた。よくよく見るとあの主役の蟻が：「どうしたのお婆ちゃん」とすると「蟻のおつたけん、ナンサマ殺したつた。今頃蟻がねー」十一月半ばとなると、蟻もそうでもない。それをやつと捕まえたのに。「エーウソー」次男坊の嘆きの雄叫びが向陽寺の境内にこだました。そういうえば、蟻を見つけたらお袋はよく殺していた。いやみんなそうだった。蟻には悪いがみんな笑つた。蟻んこをベットの出来る年代ではない。九十四歳だよ。罪はない。ピンチヒッターの蟻んこを亦入れたのだが、お婆ちゃんには見せないことにした。これがまた会議ばかりして一向に掘らない。どつかの政治家か？

